

【分科会 15】ACT（包括型地域生活支援プログラム）の実際

出演者：佐々木育実・宮武由佳・HOPE（びあくクリニック）
原子英樹（NPO 法人多摩在宅支援センター円 訪問看護ステーション元）
吉田衣美（国立国際医療研究センター国府台病院）
増田和歌子（NPO 法人リカバリーサポートセンターACTIPS 訪問看護ステーション ACT-J）
司会進行：久永文恵（NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ ACT-IPS センター）

第 15 分科会では、過去のリカバリー全国フォーラムや「こころの元気+」でも取り上げてきた、ACT（包括型地域生活支援プログラム）に関して、実際に ACT を実践しているスタッフと ACT を利用している方に、実体験を通しての ACT について語っていただきました。

まず、静岡県浜松市にある「びあくクリニック」から、スタッフの佐々木育実さんと利用者の宮武由佳さん、HOPE さんに体験を語っていただきました。

佐々木さんからは、びあくクリニックにおける ACT の体制や実際に行っている訪問などについての説明があり、写真もたくさん紹介され、ACT のみならずびあくクリニックのアットホームな雰囲気も伝えていただきました。

宮武さんと HOPE さんからは、ACT を利用するまでのこと、利用してからどんなことに ACT とともに取り組んできたか、そしてこれからの夢などについて、ご自分のことばで話し、参加者の皆さんとそれらを共有してくださいました。短い時間の中で、お二人のリカバリーの物語が語られたように思いました。

原子さんからは、既存の訪問看護ステーションの中で ACT を立ち上げたばかりということで、その立ち上げのプロセスや課題について語っていただきました。ACT という構造や運営のことだけでなく、理念も大切にしながら立ち上げていく重要さも伝えてくださいました。

増田さんは、ACT-J の利用者のご家族からのお手紙を紹介してくださり、ACT を利用してからのご家族とお子さんの変化について、会場に伝えてくださいました。同じく ACT-J にかかわっている吉田さんからは、どうして ACT-J の活動に参加しようと思ったのか、診察室ではなく、利用者さんが生活している場所にかかわることの大切さなどについて、医師の立場からお話してくださいました。

皆さんからお話いただいた後に会場とのやり取りの時間を設けましたが、実際に訪問看護ステーションで ACT を運営していくにはどうしたらよいのか、ACT にかかわる医師を探すにはどうしたらよいのかなど、ACT を展開していく上での課題などの質問が目立ちました。近年「アウトリーチ」というキーワードが多く聞かれるようになったことも影響しているのかもしれませんが、ACT の活動が広がっていく過程で、利用者やそのご家族、関係者の声を反映させながら、よりよい ACT のあり方を継続的に検証していくことは重要なことです。そんなことが少しでも参加者の皆さんに伝わっていれば幸いです。

《久永文恵（NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ ACT-IPS センター）》